

広 告

野津 ホールディングスの傘下にある事業会社をリードしていく上で、企業経営と廣戸さんの身体理論は「軸」が大切という部分でよく似ている…いやそのものではないでしょうか?

安定していればバランスをとる必要がない

2016年春。異なる業種の企業グループを束ねる日本カバヤ・オハヨーホールディングスが発足した。その新たなりーダー、野津社長が対談相手として選んだのは、卓越した身体理論を提唱する廣戸聰一。なぜ、身体理論が野津社長の目指す経営戦略の裏付けとなるのか?!

野津 ホールディングスの傘下にある事業会社をリードしていく上で、企業経営と廣戸さんの身体理論は「軸」が大切という部分でよく似ている…いやそのものではないでしょうか?

廣戸 日本では昔から筋肉よりも骨が重要と考えられてきました。肉を切らせて骨を断つ」という言葉があるように骨がしつかり定まらなければ、人間は精神的にも不安定な状態に陥ってしまいます。私が提唱している「軸」というのは、人体における骨にあるもののです。

野津 骨・骨格ということですね。私が廣戸さんの身体理論の中で最も驚愕したのは、「安定していればバランスをとる必要がない」。これは真理ではないでしょうか!! 「軸」を構築することができれば、無理をしてバランスをとる必要がないのですよね。また強靭でしなやかな企業本質になり、さらに合理的で生産性の高いパフォーマンスを発揮できるまさに調整や妥協がない世界です。安定した「軸」さえできれば、たとえ迷ったとしても基本に戻れるはずです。

廣戸 その通りですね。「軸」を持つことによる安定は「停止状態」ではありません。安定しながらも身体の中は常に微細な動きをしており、それによっていつでもフレキシブルに対応できるようになっています。自由に動くためにも「軸」が必要なのです。

野津 その微細な動きというのが、企業におけるコミュニケーションです。

「人」×「ダイナミクス」

野津 私の役割は、これまで個別に運営されてきた事業会社に、方向性を指示することです。多様な卓越性を、企業レベルだけでなく、「人のレベル」で有機的に運動すること。肩書きや立場にとらわれないダイナミックなコミュニケーションが重要な要素であると向かって複合的かつ立体的に発生する力だと廣戸さんからお聞きしたことがあります。いかがですか?

廣戸 まさしくその通りです。競技で結果を出すためにも、肉体を余すことなく運動させなければいけない。身体の動きで言うと、運動性とは関節の動きの順番だと思われるがちですが、順番にはさほど意味はありません。大切なのは動作の目的。例えば、脳に順番などを考えずに情報を同時に発信します。脳が「水を飲め」と指令を出したら、全身の細胞が全て水を飲むように動き出すのです。野津社長がおっしゃった有機的なつながりというの、まさにそういった状態のことです。

野津 そうですね。現在、ホールディングスでは100以上のプロジェクトが運動して目的に向かって動いています。売上や利益は手段であって目的ではありません。日本では往々にして手段を目的に替えてしまう傾向があります。目的を明確にして組織全体に浸透させ続けることが重要です。

目的の明確化

一般社団法人「レッシュ・プロジェクト」

代表 廣戸 聰一

1961年、東京都生まれ。独自の身体理論「レッシュ理論」を提唱し、注目されているトップアスリートのトータルコンディショニングから一般施療までサポートしている。JOC日本オリンピック委員会強化スタッフ。

日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

代表取締役社長 野津 基弘

1971年、岡山県生まれ。カバヤ食品、オハヨー乳業など異なる業態の企業グループを束ねる「日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社」の代表取締役社長。機能的なガバナンス経営を構築している。

感動を生み続ける

「眞の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする」

が出たと思いがちです。しかしそれは手段でしかなく、新しい手段に淘汰されてしまします。大切なことは、どんな形にも無限に変化できるように、頭はもちろん、肉体にも正しい知識を与えてあげることです。

野津 まさに私たちには存在目的と経営方針を立て、数字だけに頼らない経営に着手しました。

リミッターを解除し、突き抜けて貫け!

廣戸 これまでの手法では、なかなか突破ができないことがあります。しかし、自分には上がいるといつ歓しい現実を知り、それでもおかしく自分は上に行きたいと思うかどうか。そういった強い気持ちが世界で戦うためには絶対に必要です。

野津 現在、様々なトップアスリートを指導している廣戸さんから見て、強くなる、勝つために必要な資質は何だと思いますか。

廣戸 選手に一番求められるのは、気持ちですね。目的に対して限界を持たないということです。自らの基準点を安易に決めてしまったのは油断ですよ。昨日できたことが、今日できるとは限らないし、昨日できた自分の最高のものが、1日経つたら他の国の人誰かに追い越される可能性がある。ですから、日々精進しなければいけない。上には上がいるといつ歓しい現実を知り、それでもおかしく自分は上に行きたいと思うかどうか。そういった強い気持ちが世界で戦うためには絶対に必要です。

野津 企業も同じです。組織の中には守らなければいけない約束事があります。私たちにとってはそれが「グループ存続目的と経営方針」です。この2つさえ守りていれば、それ以外は自由度が高い。目的が明確になり、あらゆる可能性に挑戦できます。私はあることに突き抜けて「貫け!」と伝えています。これはリミッターをかけるな、自らを解放しろ」ということです。いままで感動する商品やサービスがそつやって生まれてきました。そのための働き方も変えていくつもりです。

廣戸 まさに私たちには存在目的と経営方針を立て、数字だけに頼らない経営に着手しました。

日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

●カバヤ食品株式会社 ●オハヨー乳業株式会社 ●エクセルパック・カバヤ株式会社 ●株式会社スクエアビル ●フジ物流株式会社 ●東京レジャー開発株式会社 ●エス・ハイ・エル・カバヤ株式会社
●株式会社イケダベットファーム ●トータルアシスト・カバヤ株式会社 ●株式会社瀬戸内海経済レポート ●株式会社サンユー総合教育研究所 ●株式会社システムメイト ●学校法人三友学園